令和6年度 第1回身延町総合教育会議 会議録

日 時 令和6年10月29日(火) 13時30分～14時50分

場 所 本庁舎 第1会議室

出席者 身延町長 望月 幹也

身延町教育委員会

教育長 馬場 泰

教育委員 遠藤 一彦

教育委員 井上 敬典

教育委員 依田 智

教育委員 小林 美絵

(事務局)

企画政策課 課長 幡野 弘

企画政策担当 諏訪 一敏

日吉 真弥

片田 悠貴

臼田 健悟

(教育委員会事務局)

学校教育課 課長 望月 俊也

教育総務担当 望月 舞子

学校教育担当 望月 秀哉

生涯学習課 課長 青嶋 浩二

生涯スポーツ担当 日吉 康

図書館担当 保科 貴子

施設整備課 課長 佐野 彰

次 第

1. 開 会

2. 町長あいさつ

3. 協議事項

(1) 第3期教育振興プランの実施状況について

① 町長

- ・身延中学校新校舎の状況について
- ・身延中学校旧校舎等解体工事の状況について
- ・スポーツ健康増進施設の利用状況について

② 学校教育課

- ・英語教育の現状について
 - (2) 令和7年度事業の計画について
 - ① 学校教育課
 - ・部活動の地域移行について
 - ② 生涯学習課
 - ・町立図書館のシステム改修について
 - (3) その他
4. 閉会

令和6年度 第1回身延町総合教育会議

1. 開会

(企画政策課長)

それでは時間になりましたので始めます。本日はお忙しい中、お集りいただき、ありがとうございます。ただ今より、令和6年度第1回身延町総合教育会議を開会します。お手元にある次第に沿って進めていきます。次第の2、町長からあいさつをいただきます。望月町長、よろしくお願いします。

2. 町長あいさつ

(望月町長)

今年の夏も異常とも言える暑い夏でしたが、ここへきてやっと涼しさが出てきました。今月にはあけぼの大豆の枝豆などの収穫も行われ、大勢の皆さんに身延の味覚を楽しんでいただきました。

本日は、お忙しい中を総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より教育行政の推進、教育振興にご尽力を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて、本日は、本年度第1回の総合教育会議となります。総合教育会議は、首長と教育委員会が教育行政の施策等についての方向性を共有して、執行していくための協議・調整を行う場です。本日は、4月に開校した身延中学校新校舎の状況やヘルシースパサンロードしもべの湯の利用状況など教育振興プランの実施状況と、令和7年度の事業計画を協議事項としています。自由に活発な意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

話を変えますが、この10月24日をもちまして、第6代の身延町長に就任させていただきました。皆さんの協力、ありがとうございました。これは、各方面の皆さまからの力強いご支援をいただいた中でのところであり、あらためてその責務の重さを痛感して、第3期を迎えています。3期目の4年については、20

年、30年先の未来に向け、本町の大きな課題となっている、少子高齢化・人口減少の克服に向けた取り組みを町民ファーストでスピード感をもって進め、町民の皆さんが、生まれてよかった、育ってよかった、住んでよかったと思えるまちづくりを進めていきたいと考えています。今後ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

また教育委員の皆さまにも、さまざまな教育の分野で協力していただくことになると思います。よろしくお願いいたします。

(企画政策課長)

ありがとうございました。それでは次第3. 協議に進みます。協議の進行は会議を招集した町長に務めてもらいます。よろしくお願いいたします。

3. 協議事項

(望月町長)

協議に入ります。ご協力をお願いします。最初に、協議事項(1)第3期教育振興プランの実施状況についてです。私から3点、発言させていただきます。1点目です。身延中学新校舎の状況について伺います。4月に開校した身延中学校新校舎について、半年以上が経過し、1学期を終え、9月には新校舎での初めての学園祭も行われました。生徒の新校舎での状況等について、説明をお願いします。

(馬場教育長)

よろしくお願いいたします。平成30年、通学環境の格差を減らし、平準化を図ることを目的として、身延町立学校施設整備計画が策定され、町の中央の下山地区に新校舎の建設が進められ、本年3月竣工、4月から供用開始となりました。優しい木の香りとぬくもりに包まれた新校舎は県内屈指の、全国に誇れる大規模な木造建築です。3月下旬に旧校舎からの移転作業を終え、予定どおり、4月5日には、1学期始業式が、8日には入学式が行われています。旧校舎とは全く異なる環境のため、生徒も教職員も最初は戸惑い、新校舎の生活に慣れるまでにはしばらく時間を要したようですが、次第に恵まれた施設設備を有効に活用し、最大限の教育的成果が上げられるよう、頑張っているように思います。9月14日には空調設備の行き届いた新体育館で、第9回身延中学校学園祭、輝桜祭が開催されました。朝早くから例年になく、多くの保護者や家族、地域の方々が訪れ、木造の堅固なつくりや緞帳の素晴らしさなどを体感しているように感じられました。

ここからは施設整備課長から新校舎の見学会について説明を行います。また教育委員からも学校訪問等で感じた、新校舎での教職員や生徒の教育活動の様

子についても、意見や感想を伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

(施設整備課長)

本年4月1日から供用開始となった新校舎には、県内の自治体、企業、団体などから興味を持っていただき、問い合わせが多かったことから、夏休みに合わせ、7月30日に完成見学会を開催しました。午前午後の2部制とし、午前の部は県内自治体などの2市2町に国の機関と山梨県を加えた54名、午後の部は企業や団体などを対象に行い、新校舎建設に携わった山梨県木材協会や七保、キーテックなど、県内外から45団体、140名の参加があり、多くの方に校舎を見学してもらいました。見学会の参加者からは、「このような素晴らしい学習環境で生徒たちがうらやましい」「木の現しが素晴らしい」などお褒めの言葉をもらいました。建設期間中は世界情勢不安などによる、資機材の高騰などがあり、難しい判断の連続でしたが、町長が掲げた、山梨県で一番、日本でも有数の学校を造りたいという合言葉の下に完成することができました。

使い始めた生徒たちからも、教室が広くてきれい、木がたくさん使われていて、温かみがある、部室ができてうれしいなど、多くの喜びの声が届いています。

(望月町長)

ありがとうございます。皆さんも学校を見たと思います。一言ずつ感想をお願いします。委員からお願いします。

(教育委員)

前にもこの席で話をしましたが、平成19年5月に身延町立小中学校適正配置審議会があり、私もその委員をしていました。平成20年8月、答申を出しましたが、そのときの審議会の答申は、小学校2校、中学校1校でした。議会で小学校は3校、中学校は1校という話が出ました。中学校が8年ぐらい前に、今の梅平へ行くときに西嶋地区の方から、「町の中心につくると言っただけでも、どうなっているのか」という意見をいただくことができました。当時そのうちできるからと言っていたことが、20年たって、下山に移転して実現したことには感慨深いものがありました。また、建物自体も町内の身延山の木材をたくさん使っています。木の香ホール階段は、音響が木骨の音響であり、他にはない、特色ある校舎になっています。何度か行きましたが、行く度に素晴らしいと思いました。町長と教育長が町の教育に対して熱心に取り組んできた結果だと思っています。それで生徒も喜んでいるのであれば、本当に言うことのない中学校だと思いました。以上です。

(望月町長)

ありがとうございました。委員、お願いします。

(教育委員)

委員の言うように、地理的、位置的な状況が改善されたということです。開校後8ヶ月が経過したのですが、特に町の北のほうに住んでいる、子どもを持つ家庭でも安心しているのではないかと思います。二つ目は中身に関わることです。木のぬくもりがある、温かい校舎だと感じました。多くの細かい配慮がされています。先ほどは体育館の空調設備の話がありましたが、相談室なども複数あり、現代的な視点からも非常に評価できる校舎だと感じています。以上です。

(望月町長)

ありがとうございました。委員、いかがですか。

(教育委員)

先ほどの2人が述べたことに加えます。私も教員時代に2度ほど校舎の新築に関わったことがあります。そのような所と比べても、構造が非常にシンプルで、子どもたちが実際に使う部分をととても広く取ってあることに感銘を受けました。立場上、具体的な名前は出せませんが、以前にいた学校の校舎はつくりが複雑で子どもたちのざわめきや存在を職員室からは感じ取りにくいところがありました。この校舎にはそのような部分がなく、とても過ごしやすいのではないかと思います。学校訪問する中で、子どもたちがそのような良い環境の中で非常に落ち着いて学習に取り組んでいる様子をたくさん見ることもできました。とても安心しました。以上です。

(望月町長)

ありがとうございました。委員、お願いします。

(教育委員)

皆さんが述べているように、木のぬくもりをととても感じる校舎だと思います。教室の南側に建物がないので、とても開放的な雰囲気を味わうことができ、学校訪問のときには、とても気持ちの良い風が入ってくるのを感じました。来年は息子も入学するので、とても楽しみにしています。本当にすてきな校舎をありがとうございます。

(望月町長)

ありがとうございました。この校舎は行政が主導ではありますが、町全体を巻き込んで造りたかったのです。造成工事は日本軽金属の協力を得ました。また地元の木材を使うに当たっては、身延山久遠寺の材を寄付してもらって使わせてもらいました。誘致したキーテックの材料も使わせてもらいました。それ以外に、絵を描いてもらったのも身延町出身の画家です。また緞帳を寄付してくれた方も下山の出身者で、現在は大阪県人会の望月靖允さんです。他にも大勢の方から多額の寄付をいただいた中で、備品の整備など、多くを充実させることができました。子どもたちには、とてもいい学校で学ぶことができているという誇りを持ってほしいという気持ちがあります。

身延町はこのように子どもたちの教育に力を入れているということ子どもたち自らに理解してもらいたいと思いました。私もよく言うのですが、自分の子どももこの学びやで学ばせたいと思ってくれるほどの校舎を造りたいと思っていました。私たちのそのような目的は十分に果たすことができているのではないかと思います。10月25日の金曜日に、木材利用推進全国大会が東京で開催されました。これは木材を利用した木造建築物の表彰を行うものですが、最初に優良施設部門があります。その中で、身延中学校が、木材利用推進中央協議会会長賞を受けました。木材利用推進中央協議会が主催している全国大会です。中には、農林水産大臣賞などもあるのですが、民間の大きなビルのようなものも評価の対象になります。七つか八つが選ばれていたのですが、その中に学校が二つあり、身延中学校と東京の小学校でした。学校としてはどちらも素晴らしい木造建築でしたが、その表彰を受けてきました。それも併せて報告します。

施設整備課長も中学校からもいくつかの要望をまだ受けているようです。ですから今が完成ということではなく、子どもたちが使いやすいような改修を続けていかなければならないと思っています。一つ目については以上です。

次に進みます。現在、身延中学校旧校舎の解体工事を進めています。これについて伺います。身延中学校旧校舎、屋外プール、身延小学校体育館、身延給食センターの解体工事について、説明をお願いします。

(馬場教育長)

身延中学校旧校舎等の解体工事については、7月に入って本格的に解体作業が開始となり、現在、解体作業は全て完了しています。また新校舎への移転に伴い、不要となった椅子や机、スチール棚などは一般の方々に再利用してもらえるように、6月23日に学校備品の即売会を開催しました。詳細については施設整備課長が説明します。

(施設整備課長)

教育長から話があった学校備品の即売会ですが、当日はあいにくの雨にもかかわらず、早朝から 200 名を超える方の来場があり、大変なにぎわいとなりました。出品した主立ったものは即時完売となり、反響の大きさに大変驚いています。またその日の午後には、解体前最後の見学会を行い、こちらにも多くの幅広い年代の方々の応募があり、教室など、校舎を隅々まで、当時の思い出にひたりながら見学していました。

旧校舎等の解体ですが、7月に入って本格的に解体作業が開始され、身延小学校に隣接する、旧給食センターの解体工事は騒音や振動など、児童への影響を考慮し、夏休み期間中に作業を完了し、その他の校舎、屋外プール、部室棟、身延小学校体育館についても、仮設防護柵や防音シートの設置など、安全に配慮し、順次解体を行ってきました。現在、解体作業は全て完了し、整地作業を残すのみとなっています。今後は用地測量調査により、境界の確定、地権者の調査確認を行い、解体後の跡地利用を検討するための基礎資料としたいと考えています。

(望月町長)

ありがとうございました。6月の備品即売会は雨の中で開催しましたが、早朝から大勢の方に来場していただき、即時完売しました。備品類も全て無駄なく処分することができました。学校備品ということで新たな活用が行われ、環境保全にもつながったと考えています。

解体工事も全て完了したとのことなので、残りの業務についても、事故等のないよう、安全な作業をお願いしたいと思います。資料について少し説明してもらったほうがいいのかもかもしれません。皆さんの手元にあると思います。

(施設整備課長)

写真の資料を3枚配布してあります。1枚目は新しい中学校の外観です。外観の全景、西側、南西、昇降口の正面からの写真があります。2枚目は校舎の内部の写真です。主立ったところでは、木の香ホール、図書館、柔道場、体育館の写真があります。最後の3枚目は、解体状況を示しています。解体前ということで、5月10日時点でドローン撮影をしています。全景と旧校舎を正面に撮った写真です。これが上段の写真です。それに併せて、下段に、10月16日に撮影した現状の写真があります。全景と校舎を正面に撮った写真です。

先ほど述べたように、解体は既に全て終わっており、ガラの撤去なども終わっています。あとは土の整地を残すのみとなっています。以上です。

(望月町長)

ありがとうございます。やはり町民の方からは寂しいという声を結構聞きますが、文部科学省との補助金のやりとりの中で、解体するという条件で補助の対象となっていました。それで早期に解体し、今後はこの跡地をどのように利用していくかという議論にシフトしていくことになります。ただこの土地には民地も入っています。身延山久遠寺の土地が真ん中にあります。また民間の方の土地が3件ほどあります。これまでは、学校用地ということで、ほぼ無償で借りていましたが、今後は学校用地というよりも町民のための利用方法を検討したいと思います。皆さんのさまざまな意見を聞いて、より良い跡地利用をしたいと思えます。教育委員会の委員の皆さんにも意見を伺う機会があると思うので、アイデアを考えておいて、出してもらいたいと思います。これについて、何かありますか。

小学校の給食センターの所は、見て分かるように、下の左側の小学校があり、そこが今度はスクールバスの乗降場になります。これまでは中学校で降りていたのですか。

(施設整備課)

小学校の体育館の前で降りていました。

(望月町長)

今度はバスが上まで上がります。いかがでしょうか。よろしいですか。現状の話をしました。では最後の部分です。スポーツ健康増進施設の利用状況について伺います。

昨年度4月28日にオープンした、スポーツ健康増進施設も2年目を迎えています。町民の皆さまからは変わらず大変好評であるとの声を聞いています。町内の知り合いからも、「行ってきたよ」という声をたくさん聞いています。「素晴らしい施設だね」というお褒めの言葉をいただいています。素晴らしい施設という言葉に加えてさらにいいのは、「お湯がいいね」という言葉です。この言葉は本当にありがたいです。下部温泉の泉質がいいという言葉はうれしいと思えました。では、これまでの利用状況について、説明をお願いします。

(馬場教育長)

令和5年4月28日にオープンをした身延町スポーツ健康増進施設については、日帰り温泉施設とスポーツジムを併用する町民福祉を目的とした健康増進施設と、町の観光振興、地域資源を生かした交流人口の拡大を目指し運営を行っています。令和5年度の入館者数については、おおむね目標どおりの延べ人数

となっております、売り上げについても目標に近い金額となっております。館内にアンケート用紙を置き、選択方式の回答方法でアンケートを実施しました。ほぼ全員から「満足」または「どちらかといえば満足」と回答があり、利用者の満足度も高いと感じています。令和 6 年度については上半期が経過していますが、入館者数を令和 5 年度と比較すると、約 13%伸びています。この 13%という数字は、昨年 4 月 28 日にオープンしたので、昨年の 5 月から 9 月までの入館者数と本年度 5 月から 9 月までの入館者数の比較です。今後のますますの来館者増を期待しています。

また、本年度は株式会社クスリのサンロード身延湯の杜と委託契約を結び、2 階のジムやスタジオを使用して、未就学児親子から高齢者まで幅広い年代を対象とした運動教室を実施しており、利用者の増加につながっています。しかしながら、昨今はあらゆるものの物価が高騰し、特に光熱水費や人件費について、経費節減が重要な課題となっております、指定管理者においても効率的な運営を心掛けています。詳細は生涯学習課長から説明します。

(生涯学習課長)

生涯学習課の青嶋です。よろしくお願ひします。令和 5 年度の入館者数については目標値である 10 万 3,000 人に対し、10 万 1,534 人となり、率にして 98.6%になりました。入館者のうち、入浴のみ利用した方が 69%、入浴と 2 階のジムを利用された方が 25%、食事やリラクゼーションのみを利用された方が 6%という割合となっております。

また、令和 5 年度に実施したアンケートについては、施設を利用した 150 名から回答をいただいております、先ほど教育長が述べたように、ほぼ全員から「満足」または「どちらかといえば満足」と回答をいただいております。

令和 6 年度については、町民の健康維持、利用者の増加を目的として株式会社クスリのサンロード身延湯の杜に業務を委託し、運動教室を実施しています。未就学児親子から高齢者を対象にした運動教室などのメニューを用意していますが、中でも小中学生向けのダンス教室やシニア向けの健康教室が人気となっております。令和 6 年度の利用者数については、9 月末までの実績で 6 万 1,000 人となっております、前年比で約 13%の増加となっております。今後も、指定管理者や庁内関係課と連携し、施策・事業を行うことにより、施設利用者の増加を図ります。以上です。

(望月町長)

委員の皆さんも温泉施設を利用しましたか。いかがでしたか。

(教育委員)

泉質も良いと思いますし、サウナもいいですが、一つだけ述べます。夫婦で行ったのですが、温泉から出た後に休息する場所が少し狭いです。通路になっていて、皆から見える所に畳があります。妻とは、もう少し広い休息場所があるという話をしました。お風呂そのものは本当によかったです。

(望月町長)

実は、あれは意図的なのです。回転を速くするためです。休憩するとそこに陣取ってお酒を飲んだり、持ち込んだものを食べたりしてしまうからです。そのようなことをサンロードからやめたほうが良いと言われました。待合には少しの座れるスペースがあります。どうしても休みたいのであれば、レストランを利用してもらおうようにするという狙いがあります。おっしゃることは分かりますが、あえてそのようにしています。委員はいかがですか。

(教育委員)

私は意外にヘビーユーザーで、週3回は利用しています。ジムも浴場も使っています。先ほど町長も言ったように、お湯がとてもいいです。私も温泉に漬かるのが好きなので、あちこちの温泉に行きますが、それらと比べても下部の湯はいいと感じています。

ジムのほうについては、数字も出ていて、もう少し使ってくれてもいいと思いますが、夕方から夜にかけてのほうがかなり稼働しているのではないかと思います。私はいつも朝一で行って使っているので、2、3人しかおらず、自分の好きなように使っています。本当にいい施設をつくってもらったので、もっと多くの町民の方にも使ってもらえるといいと思います。

(望月町長)

委員はいかがですか。

(教育委員)

私はまだ行ったことがないのですが、富士宮に住んでいる両親は利用したことがあり、下部のお湯は気持ちいいと言って喜んでいました。

(望月町長)

ぜひまた利用してください。お湯が柔らかいと言う人がいます。肌に当たらないというか、ちくちくしないというか、そのような表現をする方がいます。源泉は二つ使っています。一つはしもべ奥の湯温泉で、各旅館やホテルなどにも分湯

しているお湯です。それは49度くらいの高温です。もう一つは雨河内温泉です。湯之奥に行く道から左にそれて、谷あいに入るとあります。これは実は、再活用したものです。以前、旧下部町がそこに源泉を掘ったのですが、当時は温泉の基準が厳しかったのです。成分が二つ以上必要という基準があり、また温度の基準も満たしていないために、当時は使うことができず、掘ったままにして寝かしてありました。しかし、それを調べてみると十分使えます。また今の規格では温泉という扱いになるということでした。雨河内温泉はぬる湯です。何度くらいですか。

(生涯スポーツ担当)

20.9度です。

(望月町長)

ですから、こちらで沸かしてから使っています。そのような二つの源泉を使っています。その意味では、温泉の種類も違っているので、楽しめるのではないかと思います。またサウナも大きいので、30人くらいは入れます。通常の水風呂は、1人か2人が入れれば終わりですが、普通の湯船と同じくらいの大きさになっています。歩行湯については、私から高齢者の足を鍛えられるようにとお願いして、歩行湯を付けてもらっています。

レストランについてもさまざまな意見があります。おいしいと言う方もいれば、いまひとつだと言う方もいます。舌が肥えている方は、いまひとつだと言うかもしれません。私はおいしいと思っています。またヘルシーです。私は下部と大里の、両方のレストランを使っています。大里にもクスリのサンロードが運営している、スポーツジムと温泉、サウナ、レストランがあるという同様の施設があります。どちらのレストランでも、食事はおいしくいただいています。

またアンケートの結果を見ても、皆さんの満足度が伺えるので、うれしく思います。今後、指定管理者と連携し、また各関係課との調整を行いながら、町民の健康増進、下部温泉郷への誘客、町の魅力アップにつながるよう、町内外を問わず、多くの皆さまに施設を利用してもらえるようにお願いします。

資料の説明をしてください。簡単で構いません。

(生涯学習課長)

しもべの湯の入館者数を表した表を配付してあります。9月までは月別に令和5年と令和6年を比較しています。太字が令和6年です。先ほど教育長が述べたとおり、昨年4月は3日しか営業していませんので、入館者数に大きな差があります。5月から9月までのいずれの月も前年度を上回っています。また本年

は10月から3月までありますが、10月ももうすぐ終わるところです。サンロードに問い合わせたところ、10月も先月と先々月と同様、昨年度よりも多くなっているという話を聞いています。以上です。

(望月町長)

この数字を見ても1万人前後の方々が毎月来ており盛況です。ちょうど今、私から三つの質問をしました。これは、私が町長を務める2期のうちでも大きな事業です。私は各期で仕事をやり終えるという考え方を持っています。ここには給食センターを入れていませんが、例えば給食センターでも、昨年8月25日、2学期から供用開始になっています。温泉施設も昨年4月28日から供用開始しています。中学校についても本年4月から供用開始しています。

今、中学校の跡地は整地などがまだ残っていますが、2期の間にある程度片付けることとなります。先ほど3期に入ったと言いましたが、3期に何を行っていくかについては、自分の中で組み立てていきたいと思っています。ここからは教育委員会に説明をお願いします。よろしくお願いします。

(馬場教育長)

教育委員会からです。よろしくお願いします。第3期、身延町教育振興プランに基づいて、本年度実施している施策のうち、主なものについて説明し、町長のご意見を伺いたいと考えています。

一つは、英語教育の現状についてということで、英語教育について説明します。本町の第3期教育振興プランにも掲げているように、現代的な教育課題への対応ということで、グローバル化による国際的な社会に対応していくために、幼児期からのコミュニケーション能力の向上や異なる文化への理解を図る教育の推進をしています。その具体的な取り組みとして、町内公立私立全ての保育所での、英語教室の開催、小学校においても3校全てに1名ずつの英語指導助手、ALTを配置しています。また中学校では常勤2名の配置をしており、近隣町村と比較しても、さらには県内の市町村においてもこれだけ手厚い配置をしている自治体はありません。しかしこのALTの配置については国や県からの補助が一切ない現状の中で、全額、町の負担となっているにもかかわらず、大きな予算措置をしていただいていることに感謝します。英語教育に関しては、人材確保や予算的な面からも地域格差が生じやすいといわれている中、本町では児童生徒数が少ない状況ではありますが、非常に潤沢な配置をしてもらっています。さらに、研修センターを中心に、イングリッシュキャンプも伝統的に行われています。イングリッシュキャンプもコロナ渦を経て、内容が変化してきましたが、特に中学生を対象としたイングリッシュキャンプでは、令和4年度からは東京都にある、

体験型英語学習施設の東京グローバルゲートウェイを訪れています。私も実際に 8 月に引率して、子どもたちの様子を見てきました。イングリッシュスピーカーと 1 日英語のみでコミュニケーションを図りながらプログラムをこなす中で、まだ中学 1 年生なので、難しい単語や表現は分からないものの、一人一人が、英語という言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを学ぶと同時に、英語で分かる、伝わるという体験をしていました。最初は少し緊張していた様子でしたが、生徒たちは、すぐに緊張がほぐれ、積極的にコミュニケーションをとっていました。恐らく、毎日の授業に毎回 ALT が同行している環境にいるため、抵抗感もなくイングリッシュスピーカーと会話ができるのではないかと思います。詳細については学校教育課長から説明します。

(学校教育課長)

本町では小中学校の英語教育には非常に大きな予算が充てられており、小学校での外国語学習が必修化された令和 2 年 4 月以前から ALT が配置されてきました。町内の、全ての保育園での英語教室も実施されています。子どもにとって、英語に触れ合う時期と内容は非常に重要です。就学前の週 1 回の英語教室はコミュニケーション能力の素地を養うことにつながっています。また英語って楽しい、という気持ちの芽生えはこれから始まる英語教育の基本となります。

令和 2 年度の小学校での英語の必修化はグローバル社会を生きる子どもたちの可能性を大きく広げる教育改革と言われています。その小学校における ALT 配置について詳しく見ていくと、本町の小学校 3 校には ALT が 1 名ずつ配置されています。峡南 5 町で比較してみても、小学校 1 校に対して 1 名の配置がされている町はありません。3 校で 1 名などの兼任となっています。また、中学校への配置に関しても、本町は 1 校に 2 名の常勤配置をしています。南部町、富士川町では 1 校に 1 名ですが、その他では小学校との兼任となっています。また、峡南 5 町の ALT の配置に伴う予算額を児童生徒 1 人当たりにしたところ、本町は 4 万 4,665 円となりました。早川町は児童生徒数が 43 人と非常に少ないため比較はできませんが、市川三郷町は 2 万 5,273 円、富士川町は 2 万 5,150 円、南部町が 3 万 863 円となっています。地域格差が生じやすいといわれる英語教育ですが、他に引けをとらない環境が整えられています。ALT の先生は、単に現場の先生の補助をして英語を教える、ということにとどまらず、英語を母国語としているため、子どもたちに生きた英語、本物の英語環境を提供することができます。実際に、令和 5 年度末に本町の小学 5、6 年生を対象とした英語学習の満足度アンケートでも、ALT の先生が子どもたちの英語教育に与える影響は大きいと言える結果が出ています。「外国語の授業であなたが好きな活動、楽しいと思う活動を選択してください」という問いがありましたが、回答数が多かったものと

して「英語のゲームをすること」が上位1位はもちろんですが、その他に「友達と英語で会話をする」「日本語と外国語の違いを知ること」「英語で友達や先生の話聞くこと」等が挙がりました。調査前は「英語のゲームをする」「英語の歌を歌う」程度かと予想していましたが、本町の子どもたちは英語学習を通じて、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知り、また、違いを知ることへの大きな興味関心があることが分かりました。ALTは日々の授業を通じて、コミュニケーション能力の向上と、日本人とは異なる文化的背景を持っていることから、国際的な視野を持つことの重要性を伝えてくれています。このことがグローバル社会で活躍するための基礎を築くことにつながっています。

イングリッシュキャンプについては、本町では小学6年生、中学1年生、中学2年生の希望者を対象に3回実施しています。小学6年生では町内施設で3小学校の児童が集まりイングリッシュスピーカーが6名つき1日をかけ五つのプログラムをコンプリートしていきます。ほぼ英語のみで、楽しいゲームやアクティビティを通して自然な形でコミュニケーションが促される内容となっています。中学生になると中学1年生の夏休みと中学2年生の冬休みに、先ほど教育長からも説明がありました、東京グローバルゲートウェイに行きます。この施設にいるイングリッシュスピーカーは世界各国およそ60カ国から集まった高度なトレーニングを積んだスタッフです。子どもたちにとって、英語を話す人の出身国はある程度限定されていることが多いわけですが、東京グローバルゲートウェイへ行き、世界中から来たイングリッシュスピーカーとコミュニケーションを図る中で、グローバル世界の広さを実感するとともに、英語という言語の有用性に気付くこととなり、学校とはまた違った学びがあります。本町では、幼児期からの英語学習によって、小学校卒業までには外国文化への興味を持つ子どもたちが多く存在することから、東京グローバルゲートウェイでのイングリッシュキャンプはこれまで親しんできた英語を使えるようになるための実践の機会となっています。自分の英語が伝わる感動、相手の英語が分かる感動を味わうことで高校・大学など、今後の学びへの意欲を高めていける事業となっています。今後もグローバル人材育成の一助となるように町の英語教育の事業として継続していきたいと考えています。以上です。

(望月町長)

今、学校教育課長が説明してくれましたが、身延町は英語教育に対してかなりの投資をしています。今は、コロナで人の出足が少し鈍くなっていますが、当時から外国人の訪日客がとて多くなっています。特にお寺や神社のような大きな所は外国人にとて人気があります。身延町も恐らく今後、コロナが落ち着いてくるので、また大勢の外国人が来るようになると思います。そのときに、子

どもたちが困っている外国人を見て、よく May I help you? などと言います。私はそれしか話せません。それに言葉を返されても知らん顔をしますが、子どもたちがそのようにして道案内をすることができるような町にしたいと思っています。大人に突然英語を話せと言っても無理です。子どもの頃の頭が柔らかいうちに学ぶことが必要です。例えば、今は保育園にも ALT を派遣しています。私はここの副町長として来た 10 年前から、英語を怖がらない、外国人を怖がらないような子どもたちになってほしいという願いをずっと思って計画を作りました。まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で英語教育の充実を盛り込んでいました。英語の先生、これについていかがですか。英語の先生が 2 人います。委員、どうぞ。

(教育委員)

感想のようになってしまうかもしれませんが、身延町の特徴は保育所と幼稚園にあります。恐らく、平成 20 年の前半頃に、子育て支援課が中心になって、幼児期から英語に触れる機会をつくることが始まったと思います。学校で行っている英語教育と保幼で行われている英語活動みたいなものが非常にうまくリンクできた一つの例だと思っています。その意味では、9 年間だけではなくて、9 年間以上にわたって身延の子どもたちが英語に触れる機会があるのは大きな特徴であり、グローバル人材の育成という視点からも、一つのサンプルになっているのではないかと思います。ただ最近では、話す、聞くというところにかかなりのウエートが置かれ気味ですが、習うより慣れろ、または演繹的というよりも機能的な学習をする中で、中学生になると文法的なことも含めて英語を理解して、国際的な感覚を磨いていくことが大事になります。そのような保幼から始まる英語教育の中身をどのようにつくっていくかということも、教育委員会から学校のようなさまざまな場面を通じて問題提起したり、課題提起をしたりしてもらえればありがたいです。以上です。

(望月町長)

委員、いかがですか。

(教育委員)

私も委員と同じように考えています。小学校の段階で外国語を学ぶことがいわれ始めた頃、小学校から学ぶことで逆に早い段階から英語嫌いをつくってしまうのではないかという危惧がありました。今の話にも出ましたが、身延町は保の時代から学んでいるので、本当に幼少期から外国人に触れ合うことをしていると、その抵抗感がかなり減ると思います。そこを見据えながら、小学校また中

学校へとつなげていくこともとても大事だと思います。

また同時に、中学生段階で文法的な部分へも力を注いでいく必要があります。ただオーラルな部分だけでは不十分で、高校、大学、あるいは社会人になれば、ある程度の文法的な素養もなければなりません。そこをうまく抱き合わせながら、英語教育に努めていくことが大事だと感じています。

(望月町長)

町としても、この ALT の配置やイングリッシュキャンプなどについては、継続していきたいと思っています。教育委員会でも、最も効果的な方法を考えていただき、提言をしてもらいたいと思います。お願いします。

(馬場教育長)

ALT の活動についてです。先ほども述べたように、身延中学校には常勤 ALT を 2 名配置しています。これは類いまれな好条件だと思っています。その ALT である外国人、イングリッシュスピーカーが子どもたちのすぐ身近にいることが大きいと思っています。本年はワールドワイズという人材派遣会社から 2 人に来てもらっていますが、1 人はアメリカの若い男性で、もう一人はフィリピン出身の若い女性です。2 人とも子どもとうまく接しながら、日頃から子どもたちと英会話をしています。本人たちも、自分たちはイングリッシュスピーカーですが、日本語を学びたいと思っています。それで子どもたちと接したいという気持ちを持っています。非常にうまく活用してもらっていると思います。授業はもちろんですが、テストのときのリスニング問題の作成に関わってくれたり、町で補助してもらっている英検に向けての対策にも関わってくれたりしています。おかげさまで、英検の合格率も結構いいようです。準 2 級も何人かが取得しているような状況だと聞いています。英字新聞を作ってくれて掲示してくれるような人もいて、さまざまな面で子どもたちと関わろうとしてくれています。そのように、非常にありがたい 2 名と思っています。今後ともよろしくお願いします。

(望月町長)

では、この件についてはよろしいですか。では次に協議事項(2)令和 7 年度事業の計画についてに進みます。これも教育委員会からお願いします。

(馬場教育長)

それでは、第 3 期の身延町教育振興プランに基づいた来年度の事業計画のうち、主なものについて説明し、町長のご意見を伺いたいと考えています。一つ目は部活動の地域移行についてです。

平成 31 年 1 月 25 日に中央教育審議会において、新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策についてという答申が取りまとめられました。答申では、学校の業務であっても、必ずしも教師が担う必要のない業務の一つとして部活動を挙げ、将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取り組みにし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきだとされました。このことから、国では、部活動改革の第 1 歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築することなどを改革の方向性として、生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現するため、令和 5 年度以降の休日部活動の段階的な地域移行に係る実践研究事業の全国展開を始めています。これにより、中学校の部活動を令和 7 年度末までに一つ以上、地域へ移行することになります。地域移行により予算も計上することになります。内容については、学校教育課長から説明します。

(学校教育課長)

学校部活動は、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が自主的・自発的に参加し、各部活動の責任者である、部活動顧問の指導の下、学校教育の一環として行われ、教師の献身的な支えにより、わが国のスポーツ・文化芸術振興を担ってきました。また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有してきました。しかし、少子化が進展し、学校規模が縮小する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が厳しい状況にあります。また、専門性や意思にかかわらず教師が顧問を務める、これまでの指導体制を継続することは、学校における働き方改革が進む中、より一層厳しくなります。そこで、学校部活動では支え切れなくなっている、中学生等のスポーツ・文化芸術環境について、今後は学校単位から地域単位に積極的に変えていくことにより、将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができるよう、環境を整備する必要があります。このことは、学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上にもつながるものであると考えます。国においては、令和 4 年 6 月にスポーツ庁、8 月に文部科学省から運動部活動の地域移行に関する検討会議提言、および文化部活動の地域移行に関する検討会議提言が発出され、休日の部活動の地域移行を達成する目標時期については、令和 5 年度の、休日の部活動の段階的な地域移行開始から 3 年後の令和 7

年度末を目途とするとされました。地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備すること、およびスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指して、地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てるという意識の下で、生徒の望ましい成長を保証できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じ、スポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指すものです。以上のことを踏まえ、山梨県においては、初めに公立中学校の休日部活動を運動や文化活動をしたい生徒全てが参加可能な、友達と楽しみながらできる活動と、競技力向上やこれまで体験する機会が得られなかった活動について、市町村や関係団体等と連携を図りながら体制整備を進めていくこととなりました。まずは、休日における地域のスポーツ・文化芸術環境の整備を着実に推進し、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として、地域の実情に応じて可能な限り早期に学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行の実現を目指すこととされました。

町としては、令和4年7月、前保坂教育長より、生涯スポーツ担当に休日指導可能な人材の抽出を要請、各専門部に働きかけるものの、ほとんど人材がない状態でした。令和5年8月、休日の部活動地域移行に関わる準備小委員会を発足させ、委員長に望月和彦町スポーツ協会副会長を選任、現在までに4回開催しました。4回目は先週の10月24日に開催しており、今後の方向性等を協議しています。今後も、地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てるという意識の下で、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことのできる機会の確保を目指す取り組みを進めていきます。以上です。

(望月町長)

最も問題なのは人材がいないことです。国はある程度人口の多いようなレベルで物事を考えています。しかし、この身延町も1万人を切っており、そのような指導者がなかなか見つかりません。さらに小さい村などでは余計に見つからないというのが現状です。ですから、地域移行を言うのは簡単ですが、実際に実行に移すとなると、まず指導者を確保しなければなりません。先ほどの説明にもありましたが、そのような人材がほとんどいないというのが実態のようです。

ですから今後、この地域移行に対して、このようなことをしてみてもどうか、というアイデアがあれば出してください。一つの例を挙げます。現在、身延中学校の生徒数は160名を切っています。南部も少ないです。早川町などは恐らく10名を割っています。3町が合同で部活動を地域移行してスポーツのチームを編成するかもしれません。今、多くの学校が組み合わさって、野球やラグビーの大会に出ています。今後、身延町や南部町、早川町などのような所では、そのようなことが必要になるのではないかと思います。そのようなことも踏まえ

てご意見があれば、お願いします。

(教育委員)

町長が言うように、広域化の中で連携して行っていく方法がいいと思いますが、いかんせん距離が長いということがあります。面的に考えれば、その辺りをどのようにしてクリアするかが課題ですが、その方向で進むしかありません。単一の学校ごとでは厳しいと思います。指導者が地域にはいないということなのですが、さまざまな先進地の話のように、スポーツ振興の会社のような所をお願いして、人材を派遣してもらい、大学などから指導者を派遣してもらいということになると、部活動に対して費用負担が発生してくるかもしれません。地域の人たちの協力を得るのであれば、費用はそれほどかからないと思いますが、企業や学校から指導者を招聘するとなれば、部活をする子どもたちに対して、保護者の費用負担が発生するかもしれません。私たちの町は特に町長の理解もあり、給食費も修学旅行費もかなり負担してもらっています。先ほどの英語教育もほとんど負担してもらっています。子どもも少なくなるということも考えて、また補助金も考えて、地域よりもそのような形の企業や大学などから招聘することも考えてはどうかと思っています。

(望月町長)

町の予算も潤沢なわけではありません。先ほど、教育長からも予算についてお願いしますという最後の言葉がありました。それが私の耳から離れません。私がよく言うことですが、これをやめるので、その予算をこちらに振り分けるということが必要です。教育委員会の中でも、事業を全部見直して、役割を終えた事業のための予算を地域移行のほうへ充ててほしいというように言う必要もあります。現在、予算自体は徐々に落ちてきています。人口も減っています。その状況でお金だけが増えるというのは不可能に近いです。また先日の議会でも、サッカーをする子どもたちが中学へ行くとサッカー部がないという話がありました。今、八木沢河川敷のグラウンドで子どもたちがサッカーをしています。あれはスポーツ少年団のような形で指導者がいて、指導してくれています。ですが、中学へ行ったときに、サッカーをする場所がないという話が出ました。恐らく学校では、団体競技のチームをつくるだけの子どもの数がいなくなると思います。今は野球部があり、テニスは2人でもできますが、団体戦に出るとなれば、5チーム以上必要とか、3チーム以上必要などの条件があります。子どもの数が減ってくると、さまざまな部活をしたくても、その準備ができなくなります。そうであれば、スポーツ少年団の中学版をつくってはどうかという話をしています。そのときにも指導者の話が出てきています。先ほど、委員からは外部にお

願いすることも考えていくという話がありましたが、委員はいかがですか。

(教育委員)

先日、テレビを見ていると、NHKの全国学校音楽コンクールというのがありました。それは合唱のコンクールです。岩手だったか宮城だったか定かではありませんが、そこで6校の合同演奏が日本一になりました。ですから、地域をどのエリアとして捉えるかということになりますが、先ほどの話にあったように、複数の町を含めて、そこを活動エリアまた地域と捉えて、休日に活動していくことも検討していく必要があると思っています。ただそこで、平日の放課後に行われている活動と休日に行われる運動や文化の活動をどのようにリンクさせるかが課題になります。これからさらに議論が必要です。

(望月町長)

本日は身延町の教育委員会と私との話し合いなので、これには南部町も早川町も入っていません。一応、このようなことも考えられるかもしれないという程度の認識で構わないと思います。今、委員が述べたとおり、これまで放課後、毎日部活動を行うことができていましたが、合同で行う場合にも放課後に集まれるのかという問題があり、少し難しいような気がします。そうであれば、土日集合で、土日の部活動のような形になるのかもしれませんが、さまざまな方法を考えなければならないと思います。委員、いかがですか。

(教育委員)

私も、町長や委員が言ったようなことを考えてみると、人材の豊富な都市部と身延などの峡南の地域のように人材が少ない所は分けて考えなければならないと思います。そのように考えると、町長が最初に言ったような形がベストかもしれませんが、学校教育で、これまでの部活動をいつまでも引きずっていくなかなか移行できないので、思い切って切り離していくしかないと考えています。スポーツ少年団の段階で、例えば南部町は昔からバレーボールが盛んで、身延町の南側の子たちは行っていると聞いています。そのようなところから広げていくのが現実的なものかもしれません。費用のことを考えても、町、県、国からそのようなものを引き出すのはなかなか難しいと思いますので、地域の力を有効に生かすには、地元や近隣の町と合同で行っていくのが最も現実的だろうと思います。

(望月町長)

委員はいかがですか。

(教育委員)

先ほどサッカーの話がありましたが、夏頃に議員の皆さんが来てくれて、サッカー少年団の保護者と話をする機会がありました。そこに来た保護者は皆、サッカーをしている子どもの親でしたが、中学にはサッカー部がないということで、サッカーを続けるのであれば、外部のクラブチームに行くことになり、その場合は送迎などのさまざまな理由で諦めなければならない子も出てくるという話もありました。それは少し寂しいという意見もありましたが、子どもの数が減っているので、部活として、これから発足させるのは難しいだろうという話になっていました。ただ、子どもたちの選択の幅がこれ以上狭まるようなことがないようにしてもらいたいと思います。

(望月町長)

南部町や早川町の教育委員会のメンバーと集まるようなことがあれば、意見交換をしてみてください。各町の実態と考え方について話すことができます。そこで、今話したような共同で行う方向になるかもしれません。例えば、自分の所には指導者が何人かいるのであれば、その指導者に手伝ってもらえるようにできるかもしれません。そのような方向で当たってみてください。

時間の都合もあります。今、皆さんに意見を伺いましたが、すぐに何をすることが決まるものではないので、意見として伺っておきたいと思います。次に町立図書館のシステム改修について伺いたいと思います。よろしくお願いします。

(馬場教育長)

それではお願いします。町立図書館は図書館法第10条の規定に基づき、平成8年11月に開館し、蔵書約10万冊、このうち、児童書3万冊、雑誌約80種類、視聴覚資料約3,100点と豊富な資料をそろえており、図書の貸し出しの他、中高生の学習や社会人の方の生涯学習の場として、町民をはじめ町外の方々に広く利用されています。その利用の一端を担っているのが図書館ネットワークシステムです。このシステムは図書館資料をデータベース化するだけでなく、中富図書室や下部図書室、町内小中学校をネットワークで結ぶことにより、利用者の利便性が向上するだけでなく、学校の団体貸し出しの選書等、小中学生の読書に関する環境整備に役立っています。さらに山梨県公共図書館ネットワークに加盟しており、町立図書館で蔵書がない書籍であっても、他市町村の図書館から借り受けて利用者に提供を行うことができ、町民の生涯学習の一助となっています。このシステムですが、直近で令和元年にシステム機器の総入れ替えを行い、本年度の途中でリース期間が満了となります。その後は無償譲渡でシステム管理会社の保守により運用しますが、令和7年7月にパソコン端末等の機器類の

保守期間が終了し、不具合が発生した場合、修理対応ができなくなります。また、ソフト面においてもサポートが終了し、セキュリティーが脆弱になることから、令和 7 年度のシステム機器の総入れ替えについて協議・検討しております。この後、生涯学習課長からも説明しますが、令和 7 年度当初予算における予算措置をよろしくお願いいたします。

(生涯学習課長)

現行の図書館ネットワークシステムのリース料は月額税込みで、約 18 万 3,000 円です。令和 7 年度から導入を検討している、図書館情報システムについては、令和 7 年度から 5 年間のリースを考えており、月額約 34 万円の見積もりとなっています。高額ではありますが、図書資料のデータ作成や発注管理、貸し出しサービスとその管理、山梨県公共図書館協会や日本図書館協会等の調査物の帳票処理等、また、町内小中学校の図書館システムもこのネットワークの一部であり、町や学校が管理している図書館機能の基幹システムとなっております。

このシステムの機能が失われた場合、全てをアナログ処理することになり、利用者へのサービスを実施することが困難となるため、リプレースは必須と考えています。以上です。

(望月町長)

財政課とよく協議をしてください。34 万円の 12 カ月なので、年間で 400 万円ほどかかる計算です。これまでは 200 万少しくらいです。倍まではいきませんが、倍くらいです。その辺りのこともあるので、よく検討してください。これについていかがですか。参考に意見などはありますか。中には、400 万円かけるくらいなら本を買うほうが安いのではないかという人もいます。よそから借りてくるよりはそのほうが良いという意見でした。それは冗談半分に聞いておいてください。これについては、来年の当初予算に向けて、町の財政当局と教育委員会でもよく議論してください。恐らく町長査定にも出てくる案件だと思いますので、私のほうでも考えたいと思います。お任せいただくことでよろしいですか。ありがとうございます。

では、協議事項(3)その他です。委員の皆さんから、その他の案件がありますか。質問でも意見でも構いません。

(教育委員)

私も教育委員になって 4 年目になり、来月の 18 日で任期が終わります。先日、10 月 5 日に身延小学校の運動会があり、そこであいさつをしました。そのときに、6 年生が 26 人卒業したのですが、来年度の入学生が 5 人で、100 人を切っ

てしまうと聞いて驚き、大変なことだと思いました。そのような中で、町長や教育長が身延町の教育に対して、限られた予算の中で子どもたちのために一生懸命予算を使ってくれていることも聞きながら、小学校自体も現状の3校を維持することが厳しい状態になるだろうと思います。現場で見ていると宝拾いに5人しか出ないのです。あれは衝撃的な場面でした。先ほど言ったように、私も委員を退任するのですが、スケールメリットを生かした教育ということも考えて、限られた予算の中で行っていくということであれば、小学校のことについても考えていかなければならないと感じました。本当にびっくりしました。そのような感想です。

(望月町長)

現在、身延清稜小学校が40人を切っています。先ほど言ったように来年の新入生の宝拾いは4、5人でした。ですから将来のいつになるか分かりませんが、町民の皆さんや地域の皆さんの意見を聞いて、何十年か後には1校になるという推測もしています。ですから、今下山にある中学校が1校、小学校が1校になるかもしれません。気持ちの上では学校が存続してほしいのですが、今後、身延清稜小学校などは1人しか入らないという年度が出てきます。

私が今後考えていることですが、行政がどれほど旗を振っても、どれほどの施策を投げ掛けても、この町を維持するのは町民の皆さんの考え方です。ですから、意識改革が必要です。町民の皆さんが子どもたちをどんどん出してしまうのではなく、何とか残ってほしいのです。それを残すために、企業誘致のお願いが出てくるかもしれません。簡単にはできませんが、そのような町を残すためのお願いは私たちも歓迎します。例えば、教育の費用や子育て費用を無償化しても、子どもたちが皆出て行っています。また先ほども言いましたが、自分たちの子どもにも学ばせなくなる学びやをつくったのも、子どもに残ってほしいからです。これからは町民の皆さんの意識改革とその呼び掛けをしっかりと行っていきたいと思います。それをしなければこの町はいずれなくなります。これからこの町を残したいのであれば、若い人たちの定住が必要不可欠です。身延町では、山梨県内でも、特に女性の減少が著しいです。子どもを産める年代の、女性の数の減少率が最も高く、まさしく少子化の町になっています。これから、議員の皆さんもさまざまな人と話す機会には、子どもたちをこの町へ残すことについて話してもらいたいです。残らない理由としては、仕事の選択肢がないことがあります。製造業はありますが、製造業で求人を出しても身延では人が来ないので、困っています。以前には、工場撤退ということも言われたことがあります。求人を出しても、このまま働き手がいなければ工場を維持できないので、撤退も考えなければならないという状態があることについても聞いています。本当に負のスパイ

ラルになるので、子どもたちにはこの町に残ってもらい、この町を盛り上げていてもらいたいです。これからの主役はそのような世代の人たちになると思っています。ありがとうございます。他にもありますか。よろしいでしょうか。

またお気付きの点があれば、その都度、教育委員会を通してお寄せください。町への要望であれば、教育委員会を通して町へ言ってください。教育委員会への要望であれば、教育委員会のほうへ言ってください。それではこれで本日の協議事項は全て終了しました。事務局へ返します。

(企画政策課長)

ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第1回身延町教育総合会議を閉会します。お疲れさまでした。

以上。